

ZOOもりおか

2019 第26号



盛岡市動物公園

＼動物公園と最も深く関わる人たちの集まり／ 「動物公園友の会」と「動物公園昆虫採集クラブ」

盛岡市動物公園には、動物と動物公園をこよなく愛し、足しげく通い詰め、一般の方が入らない領域まで踏み込んで？活動する、いわば動物公園のファンクラブとも呼べる集まりが2つあります。それが「動物公園友の会」と「動物公園昆虫採集クラブ」です。その活動の様子を特集します!!

盛岡市
動物公園
友の会

盛岡市動物公園友の会とは

動物と動物公園の愛好者の集まりで、会員同士の親交を深めながら、動物公園がより多くの市民に、ますますいろいろな形で利用されるための橋渡しとなることを目的として、平成2年に設立されました。大人から子どもまで、100名ほどの会員が年10回ほどの例会を通して、自然や動物、そして動物公園について楽しく学びながら活動しています。

活動の内容

活動 1



動物公園の裏側までよく知つてもらうために、夏・冬の年2回、一日飼育係体験を実施しています。寝室の掃除をしたり、餌づくりをするなど飼育係の仕事を体験しながら、普段は味わえない距離で動物を感じ、動物について楽しく学ぶことができます！

活動 2



ざるを使って、園内を流れる沢で生活する生き物を捕まえました。捕まえた生き物は水槽に入れて観察し、名前を調べます。オニヤンマのヤゴやサワガニなどが捕まりました！他にも園内の自然に触れて理解する自然観察をたくさん行い、環境整備のお手伝いもします。

活動 3



顔出し看板を作りました！こどもたちも上手に筆を使い、きれいに仕上げてくれました。入園者がたくさん利用しています。他に園内の植物の解説版も作り、設置しています。

活動 4



秋の動物公園まつりの時に、子供動物解説員を実施します。動物の生態や特徴などを勉強し、様々な工夫を凝らして来園者に向けて発表します。この時は、クイズ形式にしてエムマの解説をしてくれました。解説員をすることで、動物好きの子ども会員にはとても良い学習の機会になっているようです！

表紙の写真

グレビーシマウマ
(奇蹄目ウマ科)

グレビーシマウマのお母さん“キララ”と、2018年8月に生まれた息子の“ラッキー”。すくすく育つやんちゃな盛りです。グレビーシマウマは、シマウマの中で最も大きく、くっきりとした縞模様と大きな丸い耳が特徴です。現在国内で飼育されているのは7施設22頭だけで、希少な種として各園が連携して繁殖に取り組んでいます。

友の会会員さんの紹介

ふくだ 美恵子さん



—友の会に入ったきっかけは？

上野動物園や多摩動物公園でボランティアさんが活動している姿を見て、私も盛岡で何か動物園とお客様の橋渡しができた

らしいなと思っていたら、友の会のことを知ったので入りました。

—在籍期間は？誰と一緒に入会？

申し込もうと思ったら東日本大震災があり父が倒れたり、大変だった2011年から8年目になります。大人だって動物園を楽しんだっていいじゃんと一人で入りました。

—入ってみたらどうでしたか？

もう、簡単にやめられません。楽しくて楽しくて…。

—思い出に残っていることは？

飼育体験でライオンのお世話をしてくれた

イーン（先代のメス）にはえられたときは鳥肌が立ったなあ。

—友の会のいいところはどこですか？

飼育係さんに動物のことや自然のことなどたくさん教えてもらえるところ。飼育係さんがみんないい人で良かった！また、ボランティアでうさぎをだっここの手伝いをしているときのお客さんの顔がうれしそうで、私まで幸せになります。さらに、普段は入れないところに入ったり体験したりできるのはわくわくするし、友の会の子たちが元気でかわいいし、色々な年齢の人が集まっているところがとてもいいと思います！

おおつぼ ゆきこ 大坪由喜子さん

—友の会に入ったきっかけは？

平成7年に長女が広報で見て応募した1日飼育係体験に参加したことで興味を持ち、次年度に入会しました。

ておりました。現在は親・子・孫と例会に参加できることを楽しみにしています。

—思い出に残っていることは？

在籍期間が長いので数々ありますが、1つあげるとすればゾウのはなこ（先代のメス）が難産で亡くなってしまい、残されたたろうの悲しい気持ちを汲んで、当時の会長さんを筆頭に「ゾウのたろうに新しいお嫁さんを！」と署名活動を行い市民の方々からたくさん支援をいただきました。その後、職員の皆さんのご努力のおかげでマオちゃんをお迎えすることができました。友の会の活動でお手伝いできた1番の思い出です。

—友の会のいいところはどこですか？

会員の皆さん生き物が大好きな人達の集まりです。子供から大人まで一同に例会や行事を楽しんでいます。なにより職員の方々が動物を愛し、仕事に真摯に向き合い、充実した例会を考えて楽しませてくださるのがいいところです。動物公園まつり等の行事では、子供たちが積極的にイキイキと頑張ってくれます。その様子に励まされるのでやめられません。最後に、盛岡市に動物公園が開園して30年が過ぎました。これからは、新しい動物公園を目指しますます皆様を楽しませ活気あふれる癒しの場所として存続し、私たち友の会も寄り添って活動できたらうれしいです。

—在籍期間は？誰と一緒に入会？

平成8年に私と子供2人の計3人で入会しました。途中子供たちは成長と共に退会しましたが、私の在籍期間は22年を越えました。現在は平成27年に長女とその子供2人が入会して計4名、3世代で会員継続中です。

—入ってみたらどうでしたか？

入会当時は子供たちとボランティアや動物公園行事のお手伝いをして楽しく活動し

—在籍期間は？誰と一緒に入会？

長男が平成19年から、父・母・次男が平成20年からお世話になっています。

—入ってみたらどうでしたか？

動物と関わるだけでなく、工作をしたり、昆虫採集や植物を使って遊んだり、自然の中で活動することもハマった我が家です。

—思い出に残っていることは？

冬の一日飼育係体験の日のソリ遊びや雪遊びで子供も大人も飼育係さんもみんなで思いっきり楽しんじゃうこと。また、畑で苗を植え、収穫して作ったポップコーン

が感動的なおいしさだったこと！

—友の会のいいところはどこですか？

一般の来園者の方々は見ることのできない獣舎の中に入って動物を近くで見ることができます！冬の一日飼育係体験、夜の動物公園などでは動物公園を貸し切って楽しむことができる！トラックの荷台に乗ることもできる！ボランティアでウサギをだっこなどのお手伝いをすることもできる！友の会の活動で学べることも多く、ちょっと賢くなることもできる！

しらくら いっか 白倉さんご一家

(左からお母さんの宏美さん、長男の誠也くん、次男の歳也くん、お父さんの義之さん)



—友の会に入ったきっかけは？

知り合いから友の会の活動の楽しさについて聞き、入会したいと思いました。

動物公園昆虫採集クラブ



昆虫採集クラブとは

動物公園には林や原っぱ、沢などのたくさんの自然があり、多くの昆虫がいます。そこで、トンボやヤゴを捕まえたり、花に集まる昆虫を捕まえたりと、昆虫を題材にしたイベントをたくさん行っています。中でも昆虫の捕まえにくさで点数をつけて、捕まえた昆虫の総得点を競う昆虫採集大会は特に人気で、毎回たくさん的人が参加するほか、いつでも園内で虫捕りができるように、虫捕り網を無料で貸し出していて、週末にはたくさんの子どもたちが網を持って走り回る姿が見られます。

そんな中、もっと昆虫について継続的に深く丁寧に学んで、昆虫と自然に対する興味と知識を深めてもらえるような、虫に特化した集まりをつくろうということになり、平成22年に昆虫採集クラブの活動を始めました。



毎年約50名の会員が年10回の例会を通じて園内の自然や昆虫のことを楽しみながら学んでいて、これまでにべ474名の会員が活動をしてきました。



活動の内容



例会でははじめにその季節に見られる昆虫についてのお話をした後、園内で昆虫採集をします。

昆虫採集と言ってもその方法は様々で、木の上にいる虫を捕る方法やチョウなど特定の虫を捕る方法、糖蜜や落とし穴、灯火などの餌を使って虫をおびき寄せる方法など、季節や採りたい虫に合わせたいいろいろな採集方法を体験しながら昆虫採集を行います。



木の下にシートを敷き、枝を叩いたり揺らしたりして、枝の上のハムシやゾウムシの仲間を捕まえます。

腐ったリンゴに糖蜜（焼酎、黒糖、酢を混ぜた樹液のようなにおいの液体）をかけてネットに入れ、木に仕掛けてカブトムシやクワガタムシを呼び寄せます。





林の中に穴を掘り、虫が落ちると這い上がる物を埋めて落とし穴を作ります。昆虫をおびき寄せるために肉や乳酸菌飲料を入れて、シデムシやオサムシを捕まえます。この他にも、冬には朽ち木を割って中で冬越しをしている虫を観察したり、網を持って走り回るだけでは捕まえられないようないろいろな虫の捕り方を体験します。

そして、採集した昆虫は種類を良く調べ、虫ピンや展翅板などを使って標本にし、標本箱に整理して自分だけのコレクションにします。



こうして毎年たくさんの種類の昆虫が採集され、名前が分かったものだけでもその数は688種類になりました。また、これまでに会員が作った標本の一部は、園内の動物資料館で活動記録と一緒に展示しています。

最近では会員が動物公園の昆虫に関する催し物を手伝ってくれてとても助かります。将来は会員が主催する催し物ができたり、採集クラブのリーダーができたり、もっと先には昆虫の研究者が育つたりするかもしれません。とても楽しみです。

会員の声

さいとう れい
齊藤 零さん



—昆虫採集クラブに入ったきっかけは?

元々昆虫が好きで、昆虫採集クラブがあるとホームページで知ったからです。

—在籍期間は?誰と一緒に入会?

3年です。親と妹と入りました。

—入ってみたらどうでしたか?

前から虫が好きだったので、とても楽しく、10回の例会を毎回楽しみにしていました。入ってますます虫が好きになりました。

—思い出に残っていることは?

第一回(初めての時)に、ニワハンミョウを探り、ハンミョウの仲間を初めて採った時はすごく嬉しかったです。裏の青緑色の金属光沢はとても素晴らしいかったです。

—昆虫採集クラブのいいところはどこですか?

飼育係の方々にたくさん昆虫の事を教えていただいたら、自分の昆虫につ

いてお話しできることです。同じ虫好きの人たちとのしく虫捕りをし、そのまま動物公園の昆虫調査になることです。

—標本づくりへの抵抗はありませんでしたか?

抵抗はありませんでした。以前は標本を作ったことがありませんでした。そのため少し難しかったですが、だんだんスムーズにできるようになりました。

—(親御さんへの質問) 昆虫採集クラブに入ったことでの変化はありましたか?

昆虫がますます好きになり、家でも標本づくりに熱中するようになりました。

しくうらばなし

「鳴きすぎて困っています」

シマウマが鳴くのを聞いたことはありますか？鳴き方は少し複雑で、書き表すのは難しいですが、ひと鳴きが長く、大音量です。あまり頻繁には鳴きませんが、グレビーシマウマのオス“ラガー”は他のシマウマと比べるとよく鳴きます。

ある朝シマウマのいるキリン舎の中で、先輩からちょっと長めの仕事の指示を受けていると、シマウマが鳴き始め、大声がしばらく続きました。仕事の指示は途中からほとんど聞き取れなかったのですが、話が終ったとき、とりあえず元気に大きめの返事をして、全部わかったふりで誤魔化してしまいました。ごめんね、先輩。



「シロサイのお肌ケア」

メスのシロサイ“サイカ”は43歳、大長老です。いつも元気ですが、ひとつ気がかりだったのは、年齢のせいのか体の表面に古い皮が落ちずに残り、かたまりになっていたのです。その下の皮膚に異常がないか気になり、デッキブラシでこすって落とそうとしましたが、しっかりこびりついていて取れませんでした。…ところがそれは思わぬことで解決しました。

サイカは雨に濡れるのを嫌がり、年齢のこともあるので無理をせず、雨が降ったら早めに部屋に入れるようにしています。ところがある日、突然強い雨が降ってサイカがずぶ濡れになってしまいました。部屋にしまって、「やあ、濡れちゃったねえ」と柵越しに背中をポンポンと叩いたところ、ん？手に何かついてきました。よく見るとそれはなんとしてもそれなかった古い皮のかたまりでした。ブラシでこすったら、それはもう面白いように取れる、取れる！あっという間に全身すべすべのきれいなお肌になりました。なんだ、ふやかせばよかったのか～！

ところがそこで思い出しました。サイは体毛がないので、寄生虫や強すぎる日光から皮膚を守るため、泥浴びをして、いつも体に泥をつけています。古い皮がとれてすっかりきれいになったサイカを見ながら、今度はきれいすぎるのが心配になりました。そこで泥を持ってきて、体に塗ってやりました。泥パックの出来上がりです。

助かったのは、サイカが人慣れし、私を信頼してくれているので、ああでもない、こうでもないとバタバタと体を触られまくっても、決して嫌がらず、かえって触られて喜んでいるようにしてくれていたことです。



「ニホンザルの水遊び」

現在サル山では73頭のニホンザルが暮らしています。サル山の中には大きな水飲みが2か所あり、夏の暑い時期には朝夕の2回、水をいっぱいに足してやります。

ある夏の日の夕方、いつものように水を足していると、1頭のサルが寄ってきて、何を思ったかホースから出る水に手をかざしました。水が飛び散り、そのサルは飛びのきましたが、しばらくするとまた寄ってきて、おっかなびっくり手をかざし、何度も同じことを繰り返しました。冷たくて気持ちよかつたのでしょうか？それとも遊び心なのでしょうか？

その日以来、水を足しに行くと、同じサルが決まって寄ってくるようになりました。そしてその行動は徐々に大胆さを増したのです。最初は片方だけだったのに、両手を出すようになり、次には飛び散る水に驚いていたのが全く動じなくなり、両手で水を受けながら、明らかに気持ちよさそうに涼むようになったのです。そしてついにそれは極まり、なんと、ホースから出る水に向かって口を開け、舌を出して、直接水を飲もうとし始めたのです。

次は何をしてくるか、楽しみになりました。そしてサルにホースを渡してやりたくなるのです。いつかサルにホースをまかせれば、自分で水をためるようになる日が来るでしょうか？



「威風堂々!?」

オスのライオン“キング”は現在12歳。2歳で盛岡にやってきたときにはまだたてがみも短くて幼さが残っていましたが、今や立派に成長し、堂々とした姿はその名の通り、王様のような風格を備えています。

ある日その座る姿がとても絵になっていたので、写真を撮ろうと近づくと、何か違和感が…？よく見るとキングの顔に何か白いものがついていました。なんとそれはとり鳥のフンだったのでした。

キングは私に気付くと、威嚇するようにゆっくりと近づいてきました。なんと貫禄のある歩き方なのか！しかし、顔には鳥のフン！…残念！

しばらくして見ると顔は何事もなかったようにきれいになっていました。前足でこすったのか、それとも舐めとったのか…？こすり取ったのだと信じたいです。





オニヤンマ（トンボ目オニヤンマ科）

日本最大のトンボで、北海道から沖縄まで広く分布します。成虫は水辺を中心に暮らしますが、活動範囲が広く、時々街中にも姿を見せます。他のトンボと同様肉食で、ガ・ハエ・アブ・ハチなどを捕まえて食べます。約5年という長い期間を幼虫で過ごし、その間10回ほどの脱皮を繰り返しながら成長して、成虫は6～9月に見られます。動物公園では成虫も幼虫も捕まえられますので、皆さんも挑戦してください。成虫は一度捕り逃がしてもまた戻ってくるので、そこを狙うのがコツです。

ZOO もりおか 第26号 2019年
発行日／平成31年3月10日

編集・発行／公益財団法人 盛岡市動物公園公社

〒020-0803 岩手県盛岡市新庄字下八木田60-18
TEL.019-654-8266

印刷／川口印刷工業株式会社